

〈教育実践研究〉

専門演習における動物絵本の読み方についての一考察

横井一之*

要旨

演習科目として1, 2年生は基礎演習、3, 4年生は専門演習を担当している。専門演習から2年間は指導教員が固定され、4年生秋学期の卒業論文で締めくくられる。

2022年度の専門演習Ⅱでは、5名の学生とも自然に対する造詣が深く、農業センター、植物園、動物園を見学すると非常に興味を示した。

そこで、演習で動物絵本を取り上げ、学生と一緒に読み込み、子どもにはどのように読み聞かせたらよいか、また、子どもは動物絵本をどのように受け止めるかについて考えた。学生の一連の学修をまとめ、最終的にはこのように論文形式にし、学生が卒業論文を書く練習の一環となればと考え、学生と一緒にまとめた。

1. はじめに

専門演習Ⅱは秋学期に実施されるが、それに先立ち、春学期に専門演習Ⅰがある。2022年度春学期専門演習Ⅰの授業記録は以下の表1のようである。

専門演習では、自然と触れ合う野外活動、農園での栽培、保育教材研究を軸に授業を展開しようと考えていた。最終的には専門演習Ⅳの卒業論文作成が大きな目標となるので、途中は学生と相談しながら進めていけばよいと考えている。そこで、専門演習Ⅰでは、天白公園、農業センター、東山動物園の見学を行った。これら5回の見学で、この学年の学生は自然との触れ合いが大好きだと理解できた。農園の作業をしたのは、わずか1回であった。

保育教材として、パネルシアターを4回扱った。論文講読は4回行った。

春学期の授業を通して、学生が動物好きなことが分かったので、秋学期には動物絵本を取り上げようと考えた。秋学期には、これらの絵本を読み合うことから授業を始めたが、表2のNo1.「ゴリラさんは」を読み合っていたときに、筆者がふとした質問への学生の回答を聞き、学生の絵本へのあまりにも傾倒にある種の不安を感じ、本稿で絵本に対する子どもの捉え方を取り上げることとした。なお、本稿では、表2の上から5冊No1.～5.を取り上げる。

表1 専門演習Ⅰ授業記録（2022年春学期）

回	授業概要	授業形態	実施日時
1	大学付近の動植物の観察 天白公園界隈 野草、蝶	面接	4月6日(水) 3限
2	大学付近の動植物の観察 名古屋市農業センター 野菜、牛、羊、鶏、蝶	面接	4月13日(水) 3限
3	論文講読、各学生の保育教材への興味の調査 論文の書き方(パネルシアターの論文を元にして)	面接	4月20日(水) 3限
4	東山動物園見学、動物園の配置 動物の鑑賞1(ライオン、象、虎、コアラ)	面接	4月27日(水) 3限
5	農園整理(玉ねぎまわりの除草、チューリップ、ヒアシンス、水仙の球根の取り入れ)	面接	5月11日(水) 3限
6	東山動物園見学、動物園北ゾーンの動物 動物の鑑賞2(カバ、ゴリラ、チンパンジー、オラウータン)	面接	5月18日(水) 3限
7	動物園での活動を見る視点(5領域、総合的に) 動物見学を5つの領域で見ると	面接	5月25日(水) 3限
8	シロツメクサの冠の作成。 天白公園の多目的広場で製作。	面接	6月01日(水) 3限
9	論文講読、英語の保育教材開発についてーコアラとウォンバットの歌を教材にしてー	面接	6月08日(水) 3限
10	論文講読、英語保育教材の開発と実践ーコアラの手遊びを指導してー	面接	6月15日(水) 3限
11	論文講読、保育内容(表現)の実践についてー中国青島市幼稚園においてー手遊び、パネルシアター	面接	6月22日(水) 3限
12	パネルシアターの作成 犬のおまわりさん、とんでったバナナ、シャボン玉とばせ	面接	6月29日(水) 3限
13	パネルシアターの練習 卵でお料理	面接	7月06日(水) 3限
14	パネルシアターの練習 シャボン玉飛ばせ、卵でお料理	面接	7月13日(水) 3限
15	パネルシアターの発表 シャボン玉飛ばせ、卵でお料理、まんまるさん	面接	7月20日(水) 3限

* 東海学園大学教育学部

2. 学生による絵本の読み合い

学生がとくに興味をもった絵本、表3の5冊の絵本をしっかりと読み合った。

とくに一生懸命読み込んだ感想、力を込めた部分などを、担当学生に以下のように感想を書いてもらった。

(1) ゴリラさんは (学生A)

「ゴリラさんは」について、まず「ゴリラさんは」のあらすじを説明します。

大好きなバナナを両腕いっぱいにかかえたゴリラさん。ずんずん歩いていると、バナナをじっと見つめるサルさんたちに出会います。やさしいゴリラさんは、サルさんたちにバナナをわけてあげるの

表2 取り上げた動物絵本等

No	タイトル	出版社
1	ゴリラさんは	講談社
2	しろくまピース10年のおもいで	創風社
3	およげなかったカバ「モモ」	新日本出版社
4	カバのモモがママになった	教育画劇
5	でんしゃにのって	アリス館
6	びよーん	ポプラ社
7	どうぞのいす	ひさかたチャイルド
8	ライオン	さ・え・ら書房
9	カンガルー	偕成社
10	きみのことがだいすき	バイインターナショナル
11	くっついた	こぐま社

表3 専門演習Ⅱでしっかりと読み合った動物絵本

No	タイトル	対象年齢・あらすじ	作者	出版社
1	ゴリラさんは	1～3歳、ゴリラさんがバナナを持って歩いている。ニホンザルに会いバナナをあげる。次に、マンドリル。そして、ワオキツネザルと続く。	北村裕花	講談社
2	しろくまピース10年のおもいで	2～5歳、ピースは1999年12月生まれの白熊。出産時母熊が子どもに興味を示さなかったため、生命保持のため飼育員が飼育を代理。10歳の誕生日に、76枚の写真とショートメッセージで、10年間の成育の様子を綴った記録集。写真が可愛いので、幼児も楽しく見ることができる。	愛媛県立とべ動物園	創風社
3	およげなかったカバ「モモ」	3歳～小学校低学年、カバのモモは陸で生まれたので生死をさまようこととなった。飼育員の機転でヒトに育てられることとなった。それから、モモの動物園での活動、野生への復帰、自分自身が子どもを産むこと、自分の母乳で子どもを育てたことなどを、36枚の実写真とともに、詳しい説明文を加えたドキュメント写真本である。	伊藤雅男	新日本出版社
4	カバのモモがママになった	1歳～小学校1年生、人工保育により母親の愛情を知らずに育ったカバのモモが、苦手の泳ぎを克服し、結婚そして出産……立派な「ママ」になるまでの、涙と笑いのおはなしである。前述No.3の絵本版である。	文：中村翔子、 絵：塩田守男	教育画劇
5	でんしゃにのって	1～4歳、うららちゃんは、おばあちゃんのところへひとりででかける。切符を買った。おばあちゃんは「ここだ駅」にいる。電車が出発した。「わにだ駅」でわにが乗ってきた。次の「くまだ駅」でくまが乗ってきた。「ぞうだ駅」、「うさぎだ駅」、「へびだ駅」と続く。「ここだ駅」に着いた。「おばあちゃん、こんにちは」	とよたかずひこ	アリス館

すが、とうとうバナナが残り一本になってしまいました。ですが、そこにはまたまたサルさんが、ゴリラさんのバナナを見つめています。やさしいゴリラさんとサルさんたちとのバナナをめぐるものがたり。ゴリラさんはどのような行動を取るのかが見どころです。

「ゴリラさんは」を読んで、私は相手のために何かをできる、してあげられることは素晴らしいことで、相手に向けた優しさはいつか自分にも返ってくるものだなと思いました。相手のために行動した結果、最後にはバナナがたくさん成る木を見つけることができ、皆で仲良くバナナを食べられていたので良かったなと思いました。

また、視点を変えて見てみると、本来同じ場所にいることのないニホンザル、マンドリル、ワオキツネザルなどの別の種のサルたちが同じ場所に集まり、ゴリラさんと関わっています。この点から、私は相手がどこにいるだれであっても、関係なく、分け隔てなく関わっていくことも大切なんだなということを読み取りました。

「ゴリラさんは」を読むにあたり、ポイントはサルが登場するシーンで出てくる【ぬん】という部分だと思いました。この部分をどのように工夫するかが、子どもたちが興味を持ってくれるか、そうでないか、の分け目になると思いました。バナナを見つけた時のサルの驚きや喜びといった感情や、種類の違うサルの雰囲気の違いなどを表現することができれば、より楽しい絵本になると思いました。また、【ぬん】という部分では、サルの顔が全面に描かれていて、とてもインパクトがあります。ページをめくる時に、サラサラとめくっていくのではなく、緩急をつけてめくるとそのインパクトが際立つのではないかなと思いました。

(2) しろくまピース 10年のおもいで (学生B)

ただただ可愛かった！赤ちゃんのころのピースは文句なしにかわいいが、大きくなっても本当に愛らしく、毎日眺めていられる。もうじき21歳を迎えるピースだが、これからも大好きなキーパーさんと一緒に安寧な日々を過ごしてほしいと願っている。いつか会いに行きたい。

この本は写真が多かったので、文字が読めない幼い子どもでも一人で絵本を楽しめると感じた。たくさんご飯を食べたらピースはどんどん成長していったのでこれを読んだ子どももご飯を食べることの重要性に気づくと思う。ピースはキーパーさんのことを母親だと思い、キーパーさんもピースを自分の子どものように大切に育てていて、お互いが強い信頼関係で結ばれているのが読んでいてわかった。たとえば、ホッキョクグマと人間でも気持ちがあれば親子関係は成立するし、愛着が湧くのだと思った。

(3) およげなかったカバ「モモ」 (学生C)

まずこの本を読んだ率直な感想は長いと感じた。この本を子どもに聞かせるように丁寧に読むと30分はかかるのではないかと考える。そのためこの本はある程度文字を読むことができるようになった子どもが自分で黙々と読むか、保育者が子どもを引き付けるような読み方をすると必要があるかと考える。

この本ではカバにキャラクター性はなく、すべて人間目線で描かれている。人がカバの気持ちを考え、言葉にして伝えているので実際どうなのかはわからないが、出来事やエピソードはわかりやすく書かれていて、写真も沢山使われていて内容としては子どもが楽しく読めると考える。

この本の流れはカバが生まれてから生死を彷徨い、そこからの復活で命について子どもは何か感じるかと考え、さらに生きていく中での苦悩も人間目線ではあるが描かれていて、そこからはカバのモモはよい方向へ向かっていくというハッピーエンドで終わるような話の流れになっている。

タイトルにある「泳げなかった」というワードは、ふつうカバは水中にもぐったりするイメージがあり、泳げないカバというのは意外性があり興味を引くと考える。そしてそのことについての説明がしっかりと記述してあり、どうして泳げないのかという所からどうして泳げるようになったのかという説明

がされていて、その中に飼育員さんの気持ちや苦難等も書いてあり感じるものが多いと感じました。他にも母親のノンノンとの関わりでは複雑なところもあり、子どものモモタロウとの別れではモモがどんなことを思ったのかわからない等何か感じることもあると考えるエピソードが多くあった。

この本は内容量が多く読むことが少し大変だが多くのことを学ぶことができる本であると考えます。

(4) カバのモモがママになった (学生D)

省略

(5) でんしゃにのって (学生E)

「でんしゃにのって」を初めて読んだときどういう話なのか、作者は何を伝えたいのかわからなかった。何回か読んでいくうちにこの本の面白い場面にたくさん気づくことができた。

1つ目はたくさんの動物が出てくるということだ。次はどんな動物が出てくるのだろうと期待感を持つことができるのがとても良いと思った。また子どももたくさんの動物を知ることができると思った。

2つ目は「1人でおでかけ」ということでワクワク感やドキドキ感を感じられるところだ。大人が読んでいても主人公のうららちゃんは「ちゃんとおばあちゃんに会えるのかな？」とドキドキした気持ちになった。また子どもの視点から考えると「1人でおでかけ」は「もう少しおおきくなったらすること」という考えを持っているのではないかと思う。なので「1人でお出かけできるうららちゃんがかっこいい」や「おおきくなったら1人でお出かけしてみたい」というワクワク感が生まれると考える。

3つ目は社会で生きていく上で大切なことを絵本を通して伝えようとしているところだ。そう思った1つ目は冒頭の電車の乗り方の場面である。2ページ目の「おばあちゃんへのおみやげと、きっぷをしっかりと持っています。」という言葉で、電車は無料では乗れないこと、切符というものが必要なことが学べると思った。2つ目にそう思ったのは、最後のシーンでうららちゃんが切符を落としてしまった際に電車に乗っている動物たちが「あっ、きっぷ！」と教えるシーンである。人に教えてあげるということは、自分も得になるし周りの人たちも笑顔になるということがこの絵本を通して学ぶことができる。

以上の理由により私はこの本はとても面白く、素敵なものだと思う。

将来私が、保育者になった時に子どもに紹介したいと思った。もっとこの本を年齢の低いたくさんの子どもに知ってほしいと考える。またこの絵本の色々なシリーズも読みたいと思った。

3. 学生への教員からの質問状

第2章(1)「ゴリラさんは」を読み終えて、「ゴリラさんはやさしいね」と学生5名が語り合っているところに、ゼミ担任の筆者が表4のような質問を記述方式のアンケートで投げかけた。

表4 「絵本 ゴリラさんは」に関する質問 (教員から学生へ)

次の調査にお答え下さい。

1. 先日読み聞かせをした、絵本「ゴリラさんは」は、引用文献、参考文献とするときは、“北村裕花(2021)『ゴリラさんは』講談社”と表記します。このゴリラさんを読んだ簡単な感想を書き下さい。
2. 主題は、ゴリラさんが他のサルに、優しくバナナをやるところです。親切でしょうか。このことについて、このゴリラさんをどう思いますか。簡単に書いて下さい。
3. 登場するサル類の生息地を調べるとゴリラ：ガボン(アフリカ西部)、ニホンザル：日本、マンドリル：ガボン付近(アフリカ西部)、テングザル：インドネシア、マレーシア、ワオキツネザル：マダガスカル島(アフリカ東部)と散らばっています。絵本の内容が、科学的事実と食い違うことがよくあります。このことについて、どのように考えるか簡単に答えて下さい。
4. ある人は事実と違う絵本は子どもに読むべきでないと言います。意見を述べて下さい。

この質問について、学生は表5～8の様に回答した。

表5 「ゴリラさんは」を読んだ感想

学生A：自分の持っているバナナを分ける優しいゴリラなんだなと思った。人のために何かをすると、自分にも良いことが返ってくるということ。
学生B：ゴリラさんは自分が大好きなバナナをみんなに分けてあげて優しかった。最後の1本もあげて、いいことをしたゴリラさんが、最後たくさん食べれてよかった。
学生C：ゴリラがやさしい。
学生D：省略
学生E：ゴリラさんはバナナが好きなのにサルさんたちに配っていて、とても優しいと思った。最後みんなで食べれて良い終わり方ができてよかった。

表6 「ゴリラさんは親切か？」に対する意見

学生A：親切だと思う。
学生B：自分よりも他人の幸せを優先していてすごくえらい。
学生C：ゴリラさんはやさしい。自分の物を無償で相手のために渡しているから。
学生D：省略
学生E：親切だと思う。優しいなと思う。

表7 登場するサル類の出身地が世界のあちこちに対する考え方

学生A：他の国の人も仲良くしよう。
学生B：一度にいろんな地域の動物を見れて学べると思う。
学生C：いろいろなサルを知ることができ、そこから派生して様々なことに興味をもっていく。
学生D：省略
学生E：子どもと一緒に読む本なので、そこまで気にする必要はないと思う。色々な動物がでてくることにより子どもも楽しんで読めると思う。

表8 事実とは違う絵本を子どもに読むことの是非について

学生A：頭が固い人なんだなと思います。
学生B：その意見もあると思う。
学生C：事実とは違うことを知り、事実がなんなのかを知っていき、子どもの好奇心を刺激するのではないか。
学生D：省略
学生E：そういう人もいると思う。大人になったときに誤解が生まれてしまうのはよくないと思う。

4. 動物絵本についての問いかけ

第2章で取り上げた「ゴリラさんは」の他の絵本について、学生はどのように感じているか、質問をし、紙面で回答を得た。表9の質問に対して、表10～13のような回答を得た。

表9 動物絵本についての質問

1. Tさんが実録「およげなかったカバ「モモ」」を読むと、いつも20分ぐらいかかります。どのように感じていますか。
2. 絵本「カバのモモがママになった!」は、読む時間は10分ぐらいだと思いますが、その内容は実録版と比べてどうですか。
3. 実録版「しろくまピース10年のおもいで」は10分ぐらいで読めます。読んでもらった感想を書いて下さい。
4. 動物絵本の特徴と思うことを書きなさい。

表10 実録版「およげなかったカバ「モモ」」を聞いた感想

学生A：省略
 学生B：最初の頃はあきずに聞きたけれど、内容が分かってくると眠たいと感じてしまった。
 学生C：単純に文字数が多いと感じました。ゆっくり読むと30分以上かかると思うので、読み聞かせる対象を考える必要がある。
 学生D：絵本に見入ってしまうので、長くは感じなかったです。絵本にしては細かく書かれているので、保育園児や幼稚園児向きでないと感じます。
 学生E：長い

表11 絵本「カバのモモがママになった！」を聞いた感想

学生A：省略
 学生B：これくらいの長さだと集中力がもって最後まで聞けるが、実録版を知っているので内容がとんだように感じた。
 学生C：絵を見ても、ある程度流れが分かるので、子どもにはこの本の方が良いと思います。
 学生D：全てが書かれていないので、実録版を見てからだ、あれ?と感じるところがありました。こちらの方が4歳児ぐらいから読めていいなと思いました。
 学生E：内容が簡単にまとめられており、分かりやすい。絵がかわいいので読みやすい。

表12 実録版「しろくまピース10年のおもいで」の感想

学生A：省略
 学生B：もふもふしてピースがかわいかった。
 学生C：しろくまが人間を好いていることが読み取れるので、動物に対して親しみをもつよいきっかけになると感じました。
 学生D：しろくまが産まれたときはすごく小さいんだと感じた。成長スピードが早いと感じた。
 学生E：絵が見やすくてよかった。

表13 動物絵本の特徴と思うこと

学生A：省略
 学生B：写真がついているので、頭の中で想像しながら聞くことができる。
 学生C：動物が人間に対して、敵意を向ける表現がないので、動物好きになりやすいと思いました。
 学生D：命の大切さや思いやりの心を育めるような特徴があると思いました。普段、目にすることができない赤ちゃんの姿など見れるので動物を知る機会にもなると感じました。
 学生E：成長過程が見られる。

さらに、子ども独自の思考について学生がどのように考えているかを知るために、第2章(5)で取り上げた「でんしゃにのって」に関する表14のような質問を学生に対して行い、表15～19のような記述式の回答を得た。

表14 「でんしゃにのって」についての質問

とよだかずひこ(1997)『でんしゃにのって』アリス館について

1. 先日読み聞かせをした、『でんしゃにのって』ですが、読んだ簡単な感想を書き下さい。
2. 主題は、うららちゃんがおばあちゃんのところへでんしゃに乗って行くときに、電車がいろいろな駅で止まり、駅名と同じ動物が乗り込んでくる言葉の面白さです。登場する動物をどう思いますか。簡単に書いて下さい。
3. 登場する動物はわに、くま、ぞう、うさぎ、へびがいます。どの動物も電車に乗らないし、言葉を話しません。絵本の内容が、科学的事実と食い違うことがよくあります。このことについて、どのように考えるか簡単に答えて下さい。
4. ある人は事実と違う絵本は子どもに読むべきでないと言います。意見を述べて下さい。
5. 保育の世界から見ると、先回の質問も今回もややひねくれている気がします。つまり、それは、一般に絵本を聞いて育つ乳幼児がどのような世界で生活しているということですか？

表 15 学生の「でんしゃにのって」を読んだ感想

1. 先日読み聞かせをした『でんしゃにのって』ですが、読んだ簡単な感想を書い下さい。
学生A：電車は身近にある乗り物なので、イメージがしやすく楽しい絵本なんだと思う。
学生B：どうして「ここだ」だけ動物の名前じゃないのか。
学生C：毎回駅名の動物が乗ってきたり、電車の中で動物と仲良くしていたのも見ていて楽しいです。
学生D：省略
学生E：色々な動物が出て来ておもしろかった。

表 16 登場する動物をどう思うか

2. 主題は、うららちゃんがおばあちゃんのところへでんしゃに乗って行くときに、電車がいろいろな駅で止まり、駅名と同じ動物が乗り込んでくる言葉の面白さです。登場する動物をどう思いますか。簡単に書いて下さい。
学生A：人より大きい。色が淡くて、優しそう。
学生B：全部小さい子が分かりやすい動物を使っている。
学生C：有名な動物ばかりで分かりやすい。
学生D：省略
学生E：子どもでもわかりやすい動物なので、話に入り込みやすいと思った。

表 17 動物が電車に乗ったり、話したりすることについてどう考えるか

3. 登場する動物はわに、くま、ぞう、うさぎ、へびがいます。どの動物も電車に乗らないし、言葉を話しません。絵本の内容が、科学的事実と食い違うことがよくあります。このことについて、どのように考えるか簡単に答えて下さい。
学生A：子どもにとって動物が話すことは違和感がないものだと思うので、問題ないと思う。
学生B：動物は言葉を話さないが、気持ちは一緒だから人間と同じように扱うべき。
学生C：子どもの想像力が現実にとらわれなくなるので良いと思う。
学生D：省略
学生E：他の絵本でも動物が話すことはあるし、それに対して違和感を感じないので良いと思う。

表 18 事実と違う絵本は読まない方がよいか

4. ある人は事実と違う絵本は子どもに読むべきでないと言います。意見を述べて下さい。
学生A：そういう人は、事実と同じ絵本を読めばいいと思う。
学生B：回答なし。
学生C：常識にとらわれて豊かな考えができなくなるのではないか。子どもの頃から事実ばかり伝えていると、事実だけを見て新しい発想をしなくなってしまうかなー？
学生D：省略
学生E：そういう人もいると思う。だが、大人になっても動物がしゃべると思っている人はいないと思う。

表 19 絵本の中で育つ乳幼児の世界はどんなところか

5. 保育の世界から見ると、先回の質問も今回もややひねくれている気がします。つまり、それは、一般に絵本の中で育つ乳幼児がどのような世界で生活しているということですか。
学生A：固定概念にとらわれていない世界。
学生B：自分の好きなものの世界。
学生C：まだ常識という概念がない世界。
学生D：省略
学生E：楽しい平和な世界。

5. 子どもの思考の発達について学修会

幼児が絵本を読み聞かせしてもらうときに、どんな思考で受け入れているのかを谷口 篤（1992）を読み合い、勉強した。そして、まとめとして、筆者が小テストを作成し、学生がテキストを確認しながら

ら表20のように空欄をうめていった。

表20 思考の発達確認テスト

専門演習Ⅱ小テスト () 番 氏名 (学生記入例) 2022.12.				
1. ピアジェの発達段階を書きなさい。P2 表2-1 感覚運動的知能段階 誕生から (2) 歳まで 前操作的知能段階 (2) 歳から (7) 歳まで 具体的操作段階 (7) 歳から (12) 歳まで 形式的操作段階 (12) 歳から成人まで				
2. 幼児教育施設(幼稚園、保育所、認定こども園)で絵本の読み聞かせを聞く子どもは、上記の(前操作) 的段階にある。 大学生は(形式的操作)段階にある。				
3. 適当な語を()に書きなさい。P3 L13 (1) 幼児は、ことばが使えるようになって、まだことばには真の(概念)としての機能が十分に備わって ならず、いわゆる(A 前概念)といわれる状態である。 (2) 幼児は(A)をつなぐ推理として「(B 転導的 推理)」を用いる。 (3) Bは個々の特殊な事柄から個々の(特殊 な結論)を導くやり方である。 (4) 4歳を過ぎ、(前概念的)思考はほぼ克服される。 (5) おはじきの並べかたの課題で、(前概念的)思考段階の子どもでは、数個の並べられたおはじきの下に、 同数のおはじきを並べる課題において、おはじきの列の長さを同じにするように並べてしまう。 (6) (直感的)思考段階では、おはじきを1対1対応させながら、同数だけ並べることができるようになる。				
4. 自己中心性について、()の中に適当な語を書きなさい。P4L1 (1) 幼児は自分とは異なる複数個の(視点)があることに気づかず、すべてを(自分中心)の視点、 観点からしか考えることができない。 (2) この時期の特徴は、自分の(立場)以外の(客観)的なものについてその関係の理解が困難な ことである。 だから、「ゴリラさんは」で、ゴリラもニホンザルもマンドリルもテングザルもワオキツネザルも幼児 自身の(友)だちのように考え、みんなバナナが好きだと考えても何の不思議もない。				
(3) P4L11 自己中心性の第2の特徴は自分の心の内面と外面との区別が充分でなく、(主観)と客観が 未分化なことである。したがって、無生物も含めたすべての事物には(生命)と(感情)がある とみなすアニミズム(animism)という世界観が生まれる。				
5. アニミズム(ピアジェ、1960)の段階の表を完成させなさい。P4L2				
段階	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
年齢	4～6歳	6～8歳	8～11歳	11歳以上
特徴	すべてのものに 意識がある	動くものはすべて 意識がある	自力で動くものだけに 意識がある	動物だけに意識がある

6. 考察

第1章表1の授業記録を見ると、本ゼミは大学付近の自然観察を行い、保育教材のパネルシアターの練習を行っていることが分かる。

第2章では、保育教材の動物絵本を取り上げ、その読み方、乳幼児がどのように動物絵本を聞くかについて、各学生の捉え方を取り上げている。学生Aは「ゴリラさんは」の主題をゴリラのやさしさだとし、「ぬん」という言葉をゴリラの表現のキーワードと捉えている。的確な理解だと考える。学生Aの思考は冷静で、教師からの「本来、別々の地区に住むサル類が一緒に住んでいるように書くのはおかしいのでは？」という問いに、「そんなおサルさんたちでも仲良く暮らすんだ」と述べている。

学生Bは、シロクマの写真絵本を本当にかわいげに読む。シロクマの毛のやわらかさ、そしてピースが人間のお母さんを本当のお母さんのように慕う気持ちをよく汲み取って読むことができたと感じた。

学生Cは「およげなかったカバ「モモ」(実写版)を読んだ。どの場面でもあまり読み方を変えず、淡々

と読み続けた。個人的な意見であるが、カバはシロクマほど写真写りが良いとは言えない。体表に毛がない。のっぺらぼうである。それ故に顔、身体表情に乏しい。よって、読むときにより表情を付けた読み方が要求される。文字数も多いので、表3では対象年齢を3歳～小学校低学年とした。

「カバのモモがママになった」は、前述の実写版を絵本化したものである。「カバはもともと水中でお産する」とか「生まれた雌の子はすぐに嫁先が決まる」という知識的な表記がない。前述の写真版が飼育員の思いなどが多く語られているのに対して、あくまでもモモを中心に簡単な言葉で表記されている。話の進め方も絵を中心としており、乳幼児でも分かりやすくなっている。

学生Eは、絵本「でんしゃののって」をととても気に入っているように見えた。そして、この絵本の特徴を「たくさん動物が登場する」、「幼児の一人でお出かけのわくわく感がある」、「社会で生きる力を示す」の3点あげている。的確な指摘だと考える。

第4章では動物絵本についての質問を学生にした。表10「およげなかったカバ「モモ」」についての感想では、学生Dは「絵本にしては細かく書かれているので、保育園児や幼稚園児向きでないと感じます。」と第2章(3)学生Cと同様な見解を述べている。また、表11「カバのモモがママになった」について、学生Dは「こちらの方が4歳児くらいから読めていいなと思いました。」と見解を述べている。そして、表13で、動物絵本の特徴として学生Dは「命の大切さや思いやりの心を育めるような特徴があると思いました。普段、目にすることができない赤ちゃんの姿など見られるので動物を知る機会にもなると感じました」と筆者の訴えたいことを代弁してくれている。

表19では「でんしゃののって」を通して、乳幼児はどんな世界にいてこの絵本を見ているかについて学生より回答を得た。学生の回答は「固定概念にとらわれていない、自分の好きなものがある、常識にとらわれない、楽しい平和な世界。」となった。第5章で発達心理学について、思考の発達について学修会を行った。筆者は「学生は保育心理学の授業で、表20にあるような前概念的思考、アニミズムを学んだはずだが忘れてしまっている」と考えていた。表19の学生の回答は「乳幼児は前概念的思考、アニミズムの世界で生活している」とピアジェの用語による表現ではないが正解である。

本稿では、動物絵本を読み、実際に乳幼児に読み聞かせを行った場合に気を付けること、そして乳幼児の思考について5冊の絵本を通して実践的に学修していった様子を示した。学生と一緒にまとめてきた拙著が、学生が論文を書くときの一助となれば幸いである。



図1 およげなかったカバ「モモ」を読む学生

<引用文献・参考文献>

- 伊藤雅男 (2005) 『およげなかったカバ「モモ」』 新日本出版社
愛媛県立とべ動物園 (2009) 『しろくまピース 10年のおもいで』 創風社
北村裕花 (2021) 『ゴリラさんは』 講談社
谷口 篤 (1992) 「認知の発達－思考の発達」 多鹿秀継・鈴木眞雄『発達と学習の基礎』 福村出版、

P60-66.

とよたかずひこ (1997) 『でんしゃにのって』 アリス館

中村翔子・塩田守男 (2002) 『カバのモモがママになった』 教育画劇